
尻尾(あまり尻尾は関係ない)

マシュー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

尻尾（あまり尻尾は関係ない）

【NZコード】

NZ8521M

【作者名】

マシュー

【あらすじ】

尻尾、洞窟、狩猟刀、飛竜、仔、子。

美しい鉱石が剥き出しになつた岩に、若者は鈍い音を立てて激突した。

岩にぶつかつた背中と、目の前の飛竜に打たれた腹部が同時に痛む。

「かはつ…」

口の中に込み上げてきた血が、唇の端から溢れだし、若者の鈍い赤色の腕用防具に、洞窟に散らばる得体の知れぬ骨に垂れた。飛竜は、仕留め損なつたかと残念そうな瞳で若者を見下ろした。

「お前は…」

飛竜の恐ろしい牙を支える顎がぴくりと動いた。

若者は回復薬を口に含む。いつの間に切つたのか、口の中の傷に回復薬がしみた。

「お母さんなんだろ?」

この時期、大抵の飛竜種は繁殖期である。飛竜は互いに求めあい、卵を産み、仔を育てる。

若者は回復薬の空き瓶をポーチに捩じ込み立ち上がった。

「僕も…春には父親になるんだ」

飛竜は若者の言葉が分かつてか分からずか、大きな咆哮をあげ、それは湿つた洞窟内に木霊した。

「…負けるわけにはいかない」

若者は自分に言い聞かせるよう呟き、愛用の狩獵刀を構え、桜色の飛竜へと飛び込んで行つた。

(後書き)

以前「尻尾」というテーマで書いたものをリメイク

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8521m/>

尻尾(あまり尻尾は関係ない)

2010年10月16日00時04分発行